

症 例

検診により発見されたアメーバ性大腸炎の1症例

手塚宗昭¹⁾ 渡辺英子¹⁾ 北沢洋子¹⁾
鈴木圭子¹⁾ 石橋美由紀¹⁾ 岩淵憲雄¹⁾

はじめに

アメーバ性大腸炎は、細菌性赤痢と比べ症状は軽度で患者は発症時点を特定できないことが多く『Walking dysentery 歩行赤痢』とも呼ばれる。

今回、当院事業所検診にて便潜血陽性を指摘され、精査の結果『アメーバ性大腸炎』と診断された症例を経験したので、簡単な臨床経過及び糞便の寄生虫学的検査で得られた若干の知見について報告する。

臨床経過

【症 例】53才 男性 会社員

【主 訴】便潜血陽性の精査

【現病歴】平成7年3月1週間ほど下痢が続き、近医を受診し治療をうけ軽快した。平成7年5月当院検診にて便潜血陽性を指摘され6月20日当院内科受診。6月26日注腸検査施行し上行結腸に3×2.5cmの腫瘤がみつき1型大腸癌が疑われたため、6月29日大腸内視鏡検査施行し注腸検査にて指摘された腫瘤は白苔伴い(図1)、その他回盲部から上行結腸にかけて不整形潰瘍、タコイボ状びらん散在、7月11日入院。



図1 大腸内視鏡像

《検査成績》 生化学的検査、検血、一般検尿時に異常を認めず、CRP 0.4mg/dl、便潜血(-)、HBS抗原抗体、HCV、HIV、TPHA、RPR、共に(-)。赤痢アメーバ抗体FA法200倍、IHA法2048倍。

7月21日メトロニダゾール1.5g/日投与開始、7月21日便より赤痢アメーバ陰性化、7月28日メトロニダゾール投与終了、7月30日経過良好につき退院。

病理学的検査

潰瘍部粘膜生検にてHE染色(図2)及びPAS染色を施行し、赤血球を貪食したアメーバ栄養型を多数検出した。

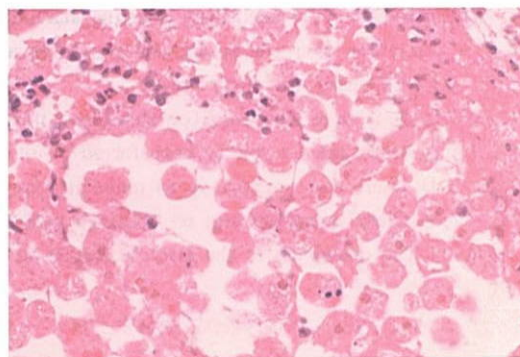


図2 粘膜膜検像(HE染色)

1) 厚生連長岡中央総合病院 検査科

寄生虫検査

【方法】

- ①37℃加温直接塗抹法²⁾³⁾にて未染色、ヨード・ヨードカリ染色し栄養型、嚢子の検索。
- ②MGL法²⁾³⁾にて未染色、ヨード・ヨードカリ染色し、嚢子の検索。
- ③永久標本は鉄ヘマトキシリン液、コーン染色液が手元になかったのでメイ・ギムザ染色を代用し作製。核構造細胞内部構造を観察。
- ④嚢子と腸粘膜上皮細胞由来の封入体細胞・白血球との鑑別困難な場合、鑑別の為尿沈査用ステンハイマー染色⁴⁾を実施。

【結果】

栄養型の検索

37℃直接塗抹法

- 成書⁵⁾には定方向に活発に運動とあるが、時々舌状もしくは半円状に水滴が広がるように偽足が時々伸びる程度で(図3)、動かないものは細胞外側の一部がヘタヘタと膨らむのがやっと分かる程度であり、検索に労力を要した。

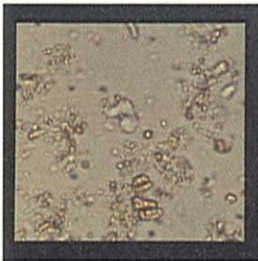


図3 栄養型

- 一時間位は、動きが観察された。
- 採便から時間が経た検体からは嚢子の検出は困難であった。

直接塗抹標本

- ヨード・ヨードカリ染色にて未成熟嚢子を確認できたが背景も褐色がかり見にくい。
- 便粘液中の腸粘膜上皮細胞由来の封入体細胞と嚢子との鑑別は、尿沈査用ステンハイマー染色を行い、封入体は赤染、嚢子は青染した。

MGL法

- 未染色にて核数1～2個の未成熟嚢子及び赤痢アメーバ特有の腸詰様類染色体が確認できた。(図4)

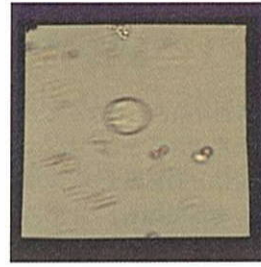


図4 嚢子(MGL法未染色)

- ヨード・ヨードカリ染色にて未成熟嚢子を確認。(図5)

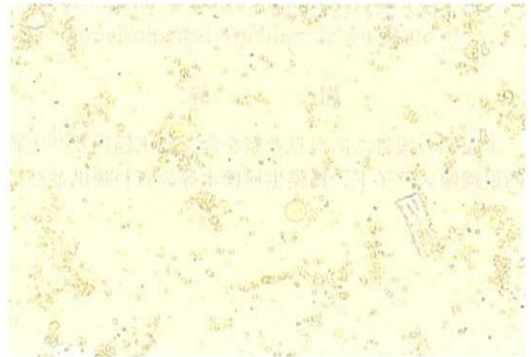


図5 嚢子(MGL法ヨード・ヨードカリ染色)

メイ・ギムザ染色

核は、はっきり染色できなかったが類染色体は、はっきり染色された。(図6)

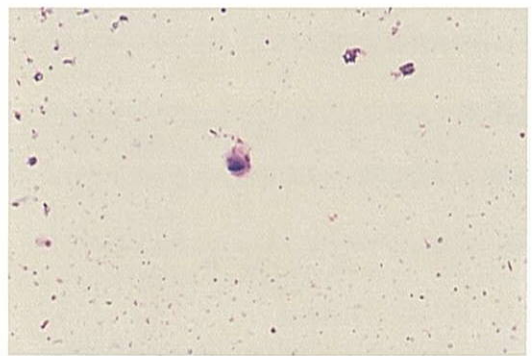


図6 嚢子(メイ・ギムザ染色)

【考察】

栄養型の検索

採便後直ちに塗抹鏡検し遅くとも1時間以内に終える。また運動が鈍い場合もあり疑わしいものは根気強く運動の有無を観察する必要がある。

嚢子の検索

- MGL法未染色のものでも類染色体が観察でき有用と思われる。
- 永久標本は、特別な染色をしなくても一般的なメイ・ギムザ染色で代用できるとされる。
- 直接塗抹標本では、腸粘膜上皮との鑑別は、ステンハイマー染色が有用である。

海外渡航歴のない中年男性のため、でアメーバ性大腸炎の感染経路として同性愛行為が強く疑われた。興味深い点は、注腸所見でI型の大腸癌を疑わせる腫瘤形成がみられたことである。文献では慢性化した例ではアメーバ肉芽腫を形成するとの報告があり、本症例はこの一例と思われた¹⁾。

謝 辞

本症例の報告にあたり考察を含む臨床経過及び大腸内視鏡像スライド、粘膜生検標本等の資料提供並びに

学術的助言を頂きました当院内科良田浩平先生に感謝いたします。

参 考 文 献

- 1) 高橋史磨、メルクマニュアル16版診断と治療日本語版1版、メディカルブックサービス 220、1995
- 2) 金子清俊、糞便内原虫検査法、新編臨床検査講座 8 医動物学、医師薬出版、86-88、1990
- 3) 宮原道明、真子俊博、糞便内原虫検査法、検査と技術、医学書院、16、1269-1274、1988
- 4) 稲垣勇夫、尿沈渣染色法、検査と技術、医学書院、22、425-426、1994
- 5) 福間利英、赤痢アメーバ症、“性感染症一症候からみた検査の進め方” 熊本悦明、他編、医薬ジャーナル社、250-260、1991

A Case of Amebic Colitis Detected by Multiphasic Health Check-ups

Muneaki Tezuka, Eiko Watanabe, Yoko Kitazawa,
Keiko Suzuki, Miyuki Ishibashi, and Norio Iwabuchi

Laboratory Division, Nagaoka Chuo General Hospital

We encountered a patient whose feces were found to be positive for occult blood by multiphasic health check-ups performed in our hospital, and detailed examinations led to a diagnosis of amebic colitis. We report herein the parasitological findings in addition to the clinical course of this case.

Key words: Amebic colitis, Multiphasic health check-ups